学長就任から３ヶ月を経過して　　2014 年 6 月 30 日

はじめに

みなさん、こんにちは。

2014 年 4 月 1 日、桜が満開の中、新年度を迎えてから早３ヶ月が過ぎました。

私はと言えば、4 月 1 日には、午前中に文部科学省に出向き、事務次官から辞令を頂くとともに、審議官や高等教育局長をはじめとして関係する方々にご挨拶した後、埼玉大学に戻って、4 月から役職に就かれた皆さんへの辞令交付と着任式を行いました。これらの、学長としての初仕事を通じて、学長としての実感と自覚を強くしたことを昨日のことのように覚えています。

その後、入学式での式辞、附属学校園入学式での祝辞、テレビや新聞の取材を通じた発言、学内外の冊子やホームページでのメッセージ、埼玉県内経済団体等の集まりでの挨拶、等々、新学長としての考えを様々な形で発信してきました。ただ、教職員の皆さんへ直接、メッセージを発信していませんでした。申し訳ありません。今後は、学長室のサポートの下、発信していきますのでご覧頂ければ幸いです。

新学長としての所信

４月１日の着任式に際して、私の考えと決意、お願いをお話しさせて頂きました。思いは今も変わりませんので、まずはその概略をお伝えします。

背景　国立大学が 2004 年に法人化されてから、丁度 10 年が経ちました。国立大学法人化は大学改革の側面を大きく有しますが、この改革を加速するため、文部科学省は昨年 11 月に「国立大学改革プラン」を公表して、各国立大学は、社会の変革を担う人材の育成やイノベーションの創出といった役割を果たすため、機能強化に取り組むことが求められています。

埼玉大学の状況と展開　埼玉大学は、「学部の枠を越えた再編・連携による大学改革 ～ミッションの再定義に基づく研究力と人材育成の強化～」という構想を打ち出し、文部科学省から高く評価されて、2013 年度国立大学改革強化推進事業に選定されたわけです。これからは、この構想を着実に進め、自他共に誇れる「知の府」として埼玉から世界へと展開していきたく思います。ただ、単に構想を着実に進めるだけでなく、さらに進化、発展させなくてはなりません。一つには、補助金の獲得に満足することなく、財政基盤として安定した運営費交付金の重点配分の獲得に変えていく

ことが喫緊の課題です。

埼玉大学への想い　私は、純朴で真面目な埼大生、四季折々に美しい景色を作り出すこのキャンパス等々、埼玉大学が好きです。活気があり活力みなぎる、活き活きとした大学であり続けて欲しいと願っています。「埼玉大学はとても良い大学である」と教員、職員、学生の、みんなが思える、自慢の出来る、それでいて自己満足ではなく、他の方々からも評価頂けるような、自他共に誇れる大学です。多様な一人一人が活力の源となって、組織としても多様な光を放ち、そのことがまた構成員の活力に繋がる、といった好循環を作り出したいものです。

みんなの力で輝く埼玉大学に　そのためには、ありふれた言葉ですが、チームワークがとても重要であると考えています。お互いの信頼関係の下、役員、教員、職員の役割分担を明確にして、教職員に役員を加えた「役教職協働」を強化するなど、少しずつでも改善に向け、進めていきたいと思っています。つまり、役教職員の一人一人の意欲と能力を最大限に引き出していきたい、そのための仕組みをしっかり構築したいと考えています。その一つの試みとして、4月から学長室をスタートさせました。これは、「国立大学改革プラン」における「ガバナンス機能の強化」にも対応するもので、学長がリーダーシップを発揮できる体制の整備としても位置付けられます。

大学の顔　体制を整備した上で、私としては、大学の「顔」としての学長の考えや施策を、学内にあっては一般教職員や学生に、学外にあっては文科省などの行政機関に、対話をベースとして、もっともっと理解して頂くために、学長の動きをより一層、活発にします。さらなるスピード感を持って、学内外をフットワーク良く動き回り、大学の意志を学長自ら発信していきたく思っています。

おわりに

埼玉大学は1949年に開学して以来、65年の時を重ねました。埼玉大学の長い歴史にあって、今回の機能強化構想は極めて大きなもので、すべての学部・研究科を巻き込むトータル・パッケージとしての全学的改革です。学長のリーダーシップの下、中堅国立大学としてのミッションをしっかり見極め、埼玉大学の個性を着実に磨いていくことにより、新たな歴史を刻みたく思います。皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。そして、ダイナミックに変革する埼玉大学の一翼を担って下さい。

学　長　　山口宏樹